

AICA



アイカ工業株式会社
2023年3月期 決算説明会



2023年 5月25日
証券コード：4206

アイカ工業の海老原でございます。

本日は当社の決算説明会にご参加いただきまして、
ありがとうございます。

それでは、
これより当社の決算の概況と、今後の事業展開につきまして
ご説明させていただきます。

1. 2023年3月期 実績概況
2. 2023年3月期 セグメント別実績
3. 2024年3月期 計画概況
4. 2024年3月期 セグメント別計画

ご覧の目次に従って、ご説明いたします。

1-1. 連結決算の概要

AICA

	2022/3期		計画	実績	2023/3期		
	実績	利益率			利益率	伸率	達成率
売上高	214,514	-	237,000	242,055	-	12.8%	102.1%
営業利益	20,348	9.5%	21,500	20,557	8.5%	1.0%	95.6%
経常利益	21,840	10.2%	22,000	22,088	9.1%	1.1%	100.4%
当期純利益※	13,117	6.1%	13,300	10,059	4.2%	▲23.3%	75.6%
※親会社株主に帰属する当期純利益							
R O E	9.4%	-	9%以上	6.9%	-	-	76.7%
一株当たり純利益	200.90	-	207.95	157.27	-	-	75.6%
一株当たり株主資本	2,223.98	-	2,300.00	2,270.08	-	-	98.7%

※親会社株主に帰属する当期純利益

[一株当たり単位：円]

- 連結業績：売上高・経常利益は過去最高を更新、営業利益は増益
- 国内事業：非住宅市場の回復や価格転嫁が進み、化成品・建装建材ともに伸長
- 海外事業：化成品はAAP社が伸長
建装建材（化粧板販売）は中国で停滞も他のアジア地域では大幅に伸長

※AAP社：アイカ・アジア・パシフィック社

©Aica Kogyo Co., Ltd.

3

2023年3月期の連結業績の概要は、ご覧の通りです。

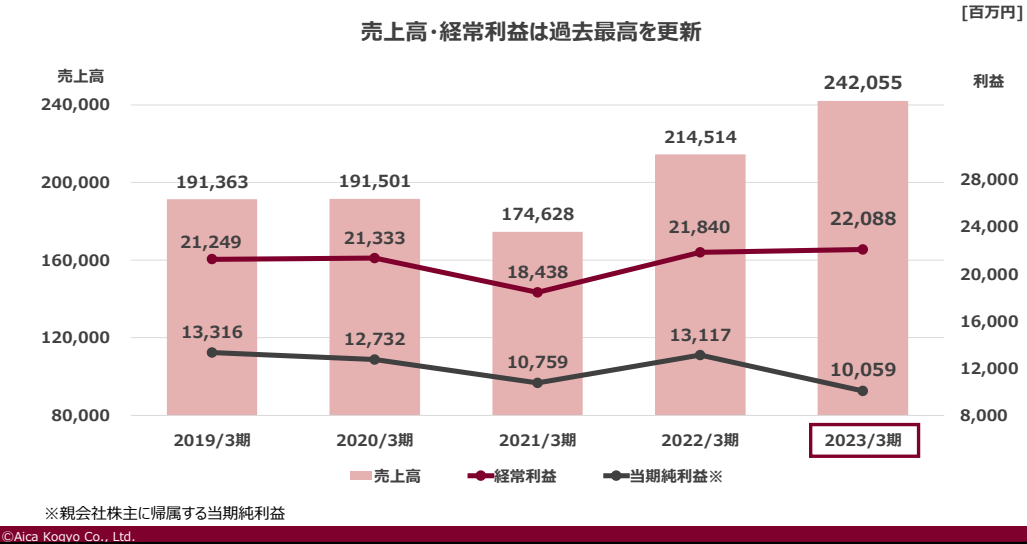
売上高、経常利益は 過去最高を更新、
営業利益は 計画を下回りましたが、前年を上回りました。
当期純利益は 建装建材セグメントにおいて、
グループ会社の固定資産などに関連する減損損失を計上した結果、
前年および計画を下回りました。

国内事業につきましては、
非住宅市場の回復や価格転嫁が進んだことから、
化成品事業、建装建材事業ともに伸長しました。

また、海外事業につきましては、
化成品セグメントにおいては、アイカ・アジア・パシフィック社、
略してAAP社の伸長により堅調に推移しました。
建装建材セグメントにおいては、中国でロックダウンの影響を受けましたが、
その他の地域では大幅に伸長し、海外全体で伸ばすことができました。

1-2. 連結決算の推移

AICA

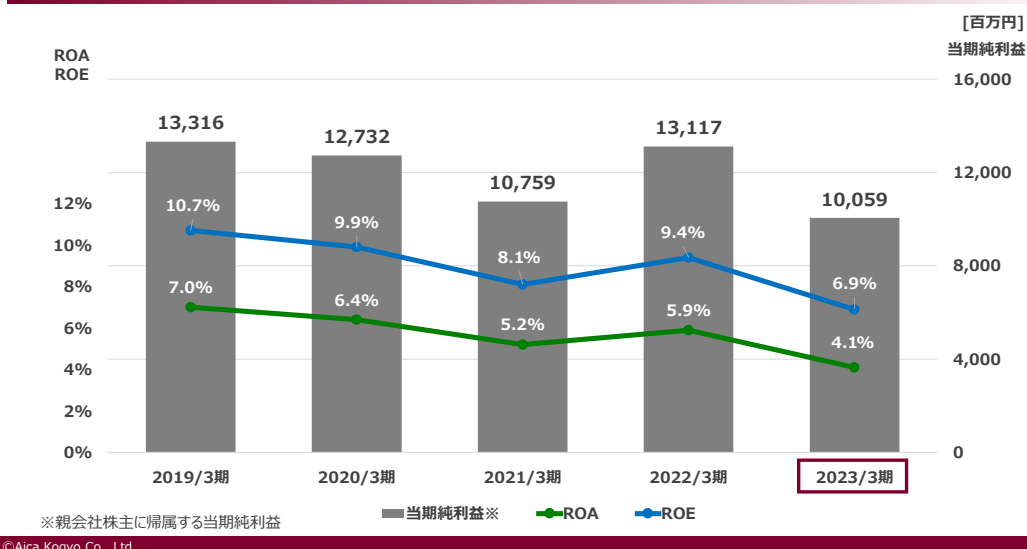


直近5年間の
連結売上高、経常利益、当期純利益の推移は
スライドの通りです。

コロナの影響を受けて2021年3月期は減収減益となりましたが
2022年3月期にはV字回復をし、
2023年3月期は売上高・経常利益ともに過去最高を更新しました。

1-3. ROA・ROEの推移

AICA



ご覧のスライドは、
当期純利益、ROA、ROEの推移です。

先にご説明の通り、前期に減損損失を計上したことから、
当期純利益は計画を下回り、
ROA・ROEにつきましても、計画値を下回りました。

この減損処理は今後の持続的成長のためには必要な措置と捉えており、
今期は回復を見込んでいます。
引き続き、経営の効率化に取り組んでまいります。

1-4. 主要項目の状況

	2021/3期 連結	2022/3期 連結	2023/3期 連結
研究開発費	33.2億円	34.5億円	39.9億円
減価償却費	56.8億円	64.1億円	67.9億円
設備投資額	61.1億円	71.1億円	86.9億円
借入金残高	76.7億円	170.5億円	125.2億円
期末人員	4,796人	4,949人	4,963人
（国内）	1,607人	1,579人	1,590人
（海外）	3,189人	3,370人	3,373人

続きまして、研究開発費、減価償却費、設備投資額、借入金残高および期末人員の状況です。

設備投資額は、86億9,000万円でした。

主なものとしては、海外化成品セグメントにおいては、AAP社の中国における工場の移転や新設、ベトナムでの設備増強などAAP社全体で約54億円を投資しました。

海外建装建材セグメントにおいては、インドのアイカ・ラミネーツ・インディア社で生産設備を増設し、約2億円を投資しました。

アイカ工業本体では、生産設備の自動化やIT投資など約18億円を投資しました。

1-5. セグメント別業績

AICA

[百万円]

	売上高			営業利益			
	2022/3期 実績	2023/3期 計画	2023/3期 実績	2022/3期 実績	2023/3期 計画	2023/3期 実績	
化成品	122,323	139,000	141,312	7,376 6.0%	8,200 5.9%	7,494 5.3%	金額 利益率
建築建材	92,191	98,000	100,743	16,379 17.8%	17,000 17.3%	16,740 16.6%	金額 利益率
			(配賦不能営業費用)	▲3,407	▲3,700	▲3,678	金額
合計	214,514	237,000	242,055	20,348 9.5%	21,500 9.1%	20,557 8.5%	金額 利益率

©Aica Kogyo Co., Ltd.

7

このスライドは、
セグメント別の売上高と営業利益です。

売上高は、
両セグメント いずれも
前期実績および計画を上回りました。

一方、営業利益は、
いずれも前期実績は上回りましたが、計画を下回りました。

1-6. セグメント別海外売上高

AICA

[億円]

	2022/3期 実績		2023/3期 実績		
	売上高	海外売上比率	売上高	伸率	海外売上比率
化成品	884.6	72.3%	1,050.6	18.8%	74.4%
建装建材	171.6	18.6%	188.8	10.0%	18.7%
合計	1,056.3	49.2%	1,239.5	17.3%	51.2%

©Aica Kogyo Co., Ltd.

8

こちらは、
セグメント別の海外売上高です。

化成品は、AAP社の伸長などにより、
初めて1,000億円を突破しました。

建装建材は、
中国事業は停滞したものの、
インド、タイ、インドネシア、ベトナムなどで
化粧板の販売が増加しました。

その結果、海外売上比率は51.2%となりました。

1. 2023年3月期 実績概況
- 2. 2023年3月期 セグメント別実績**
3. 2024年3月期 計画概況
4. 2024年3月期 セグメント別計画

続いて、
2023年3月期のセグメント別実績について、ご説明いたします。

2-1. 化成品セグメント 商品群別売上実績

AICA

[億円]

	2022/3期	2023/3期			
	実績	計画	実績	達成率	伸率
接着剤 (うちAAP社)	785.6 (643.2)	933.0 (774.4)	961.8 (794.7)	103.1% (102.6%)	22.4% (23.5%)
建設樹脂	92.2	97.2	99.2	102.1%	7.6%
機能材料	217.0	236.9	221.1	93.4%	1.9%
その他	128.3	122.9	130.8	106.5%	2.0%
合計	1,223.2	1,390.0	1,413.1	101.7%	15.5%

※AAP社：アイカ・アジア・パンフィック社

©Aica Kogyo Co., Ltd.

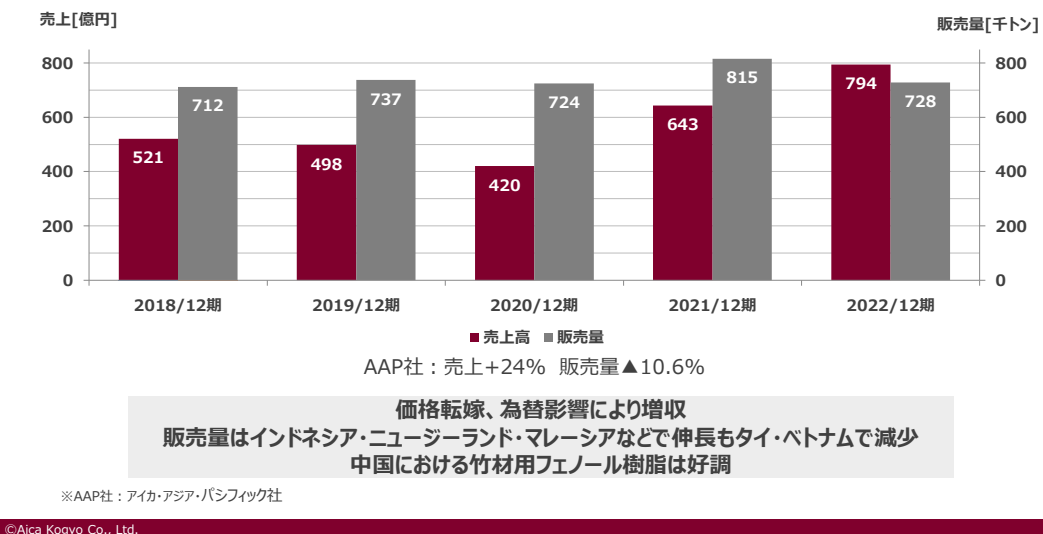
10

まず、
化成品セグメントの商品別売上実績です。

2023年3月期の実績はご覧の通りです。
すべての商品群で伸長いたしました。

2-2. 化成品セグメント 売上実績 (AAP社)

AICA



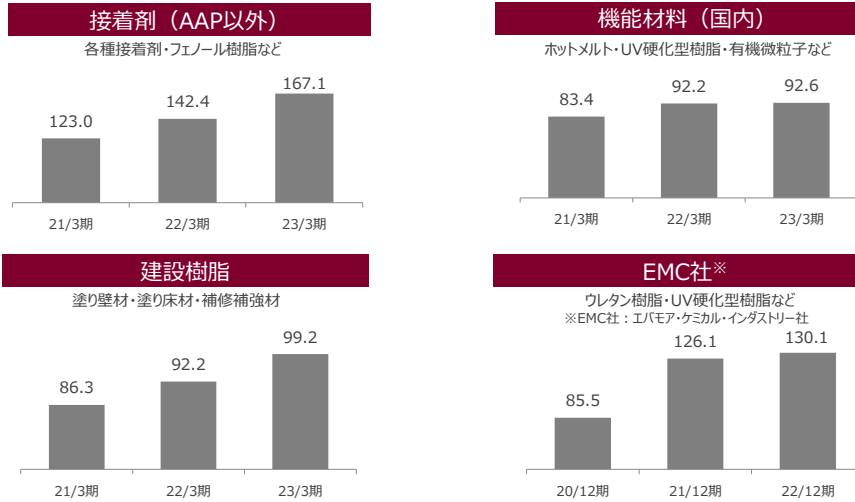
海外につきましては、AAP社において、販売量は減少しましたが、価格転嫁が進んだことに加え、円安による為替影響も加わり、大幅な増収となりました。

販売量の低下は、米国住宅市場が調整局面に入ったことで、単価の低い繊維板用樹脂が落ち込みましたが、収益への影響は限定的です。
なお、中国で市場が拡大している高付加価値品の竹材用フェノール樹脂は現地の需要を獲得し、好調を維持しました。

2-3. 化成品セグメント 売上実績 (AAP社以外)

AICA

[億円]



©Aica Kogyo Co., Ltd.

12

続いて、
AAPを除いた接着剤では、
施工用接着剤、産業用フェノール樹脂などにおいて
価格転嫁が進み、売上は前年を上回りました。

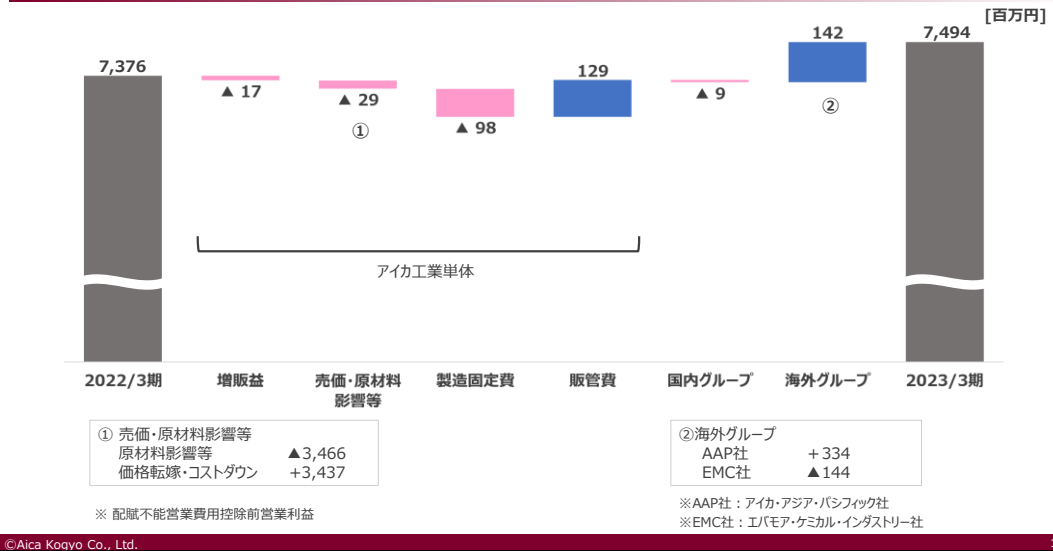
建設樹脂は、
外装・内装仕上塗材「ジョリパット」が好調に推移し、
売上は前年を上回りました。

国内の機能材料事業は、
有機微粒子が伸び悩みましたが、
自動車用の3次元加飾フィルムが好調に推移し、
売上は前年並みとなりました。

EMC社は、
シューズ用のウレタン樹脂が低調でしたが、
パッケージ用途のUV硬化型樹脂などが好調で、売上は前年を上回りました。

2-4. 化成品セグメント 営業利益実績

AICA



このスライドは、化成品セグメントにおける営業利益の増減分析です。

利益の増加要因は、アイカ工業単体の販管費減少、海外グループ会社の増益で、2億 7,100 万円、増加要因がありました。

一方、減少要因は、アイカ工業単体の増販益減少、売価・原材料の影響、製造固定費の増加、国内グループ会社の減益で、1億 5,300 万円、減少要因がありました。

この結果、前年に対して、1億 1,800 万円、利益が増加しました。

2-5. 建装建材セグメント 商品群別売上実績

AICA

[億円]

	2022/3期		2023/3期		
	実績	計画	実績	達成率	伸率
メラミン化粧板	289.3	314.1	322.0	102.5%	11.3%
ボード フィルム等	114.5	120.0	125.0	104.2%	9.2%
セラール	209.1	218.8	217.4	99.4%	4.0%
不燃建材	79.0	81.0	78.0	96.3%	▲1.3%
カウンター ポストフォーム	182.1	200.5	213.0	106.3%	16.9%
建具 インテリア建材	47.5	45.6	51.8	113.7%	9.0%
合計	921.9	980.0	1,007.4	102.8%	9.3%

©Aica Kogyo Co., Ltd.

14

続いて、
建装建材セグメントの商品別売上実績です。

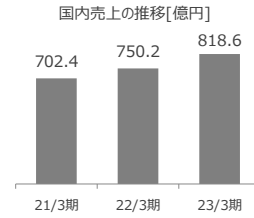
2023年3月期の実績はご覧の通りです。

不燃建材を除く全ての商品群で伸長しました。

住宅市場は概ね横ばい、非住宅市場は大幅に回復

■ 国内建設市場の市場環境（2023年3月期）

【期初予想】 住宅：▲2.4%、非住宅：+8.4%
 【通期実績】 住宅：▲0.8%、非住宅：+8.1%
 ※当社需要期へタイムラグ調整済み



■ 好調商品（2023年3月期）

高級人造石 **フィオレストーン**



大森スカイ&スカイ デザイン モデルルーム
 デザイン監修/ZA DESIGN Inc. 産期壁

抗ウイルス建材 **ウイルテクト**



株式会社竹中工務店 北海道支店 札幌地区FMセンター
 設計/施工/株式会社竹中工務店

洗面化粧台 **スマートサニタリー**



設計/株式会社クマ

建装建材セグメントの国内事業です。

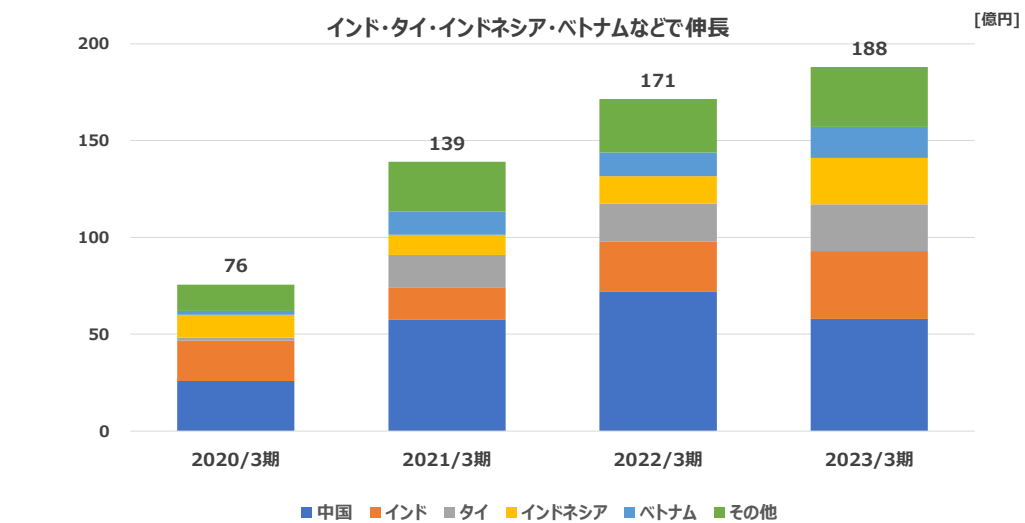
国内建設市場につきましては、
 住宅は概ね横ばいとなりましたが、非住宅は大幅に回復しました。

非住宅物件の獲得に加え、価格転嫁を進めたことも寄与し、
 国内の売上は前年を上回りました。

また、商品毎の動向では、
 キッチン天板などで使用される「フィオレストーン」、
 抗ウイルス建材「ウイルテクト」、さらに洗面化粧台「スマートサニタリー」
 の好調が継続しました。

2-7. 建装建材セグメント 売上実績（海外）

AICA



建装建材セグメントの海外事業につきましても増収となりました。

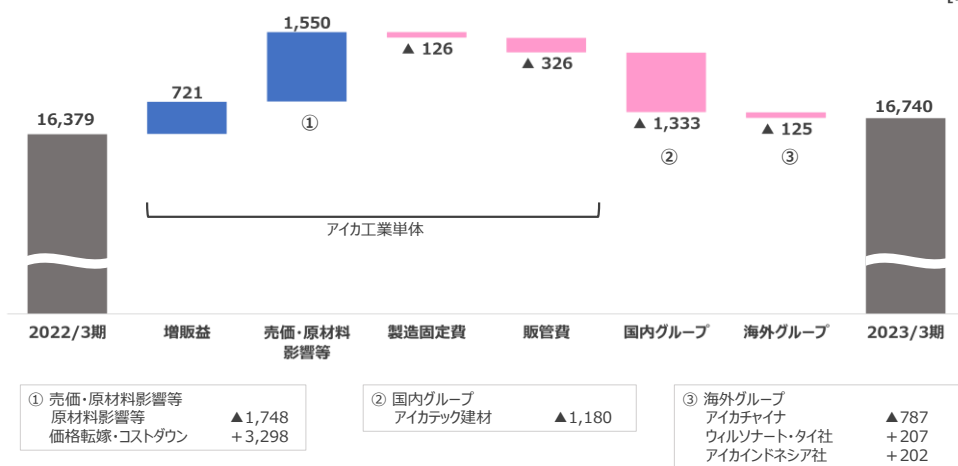
国別では、中国が前年を下回りましたが、
その他の主要な地域では、いずれも前年を上回りました。

なかでもインドでは、アフターコロナの需要を着実に獲得できており、
大幅に伸長しました。

2-8. 建装建材セグメント 営業利益実績

AICA

[百万円]



※ 配賦不能営業費用控除前営業利益

※ アイカチャイナ：ウィルソナート上海社+ソイス社

©Aica Kogyo Co., Ltd.

17

このスライドは、建装建材セグメントにおける営業利益の増減分析です。

利益の増加要因は、アイカ工業単体の増販益、売価・原材料の影響で22億7,100万円、増加要因がありました。

一方、減少要因は、アイカ工業単体の製造固定費、販管費の増加、国内グループ会社、海外グループ会社の減益で19億1,000万円、減少要因がありました。

この結果、前年に対して、3億6,100万円、利益が増加しました。

1. 2023年3月期 実績概況
2. 2023年3月期 セグメント別実績
- 3. 2024年3月期 計画概況**
4. 2024年3月期 セグメント別計画

続いて、
2024年3月期の計画につきまして、ご説明いたします。

3-1. 2024年3月期 経営環境予測

AICA

国内建設市場 ※当社需要期へタイムラグ調整済み

	住宅	非住宅
2023年3月期（実績）	▲0.8%	+8.1%
2024年3月期（予測）	▲0.7%	▲3.9%

海外市場

ロシア・ウクライナ情勢、欧米の景気失速、中国の不動産市場など先行き不透明

為替換算レート ※各国通貨建てのため、ドル建ての子会社は数社のみ

2023年3月期（実績）	1USD = 130.77円
2024年3月期（予測）	1USD = 125.00円

国産ナフサ価格 ※すべての原材料がナフサに連動するわけではない

2023年3月期（実績）	76,250円/kl
2024年3月期（予測）	66,000円/kl

©Aica Kogyo Co., Ltd.

19

今期の経営計画の前提について、ご説明します。

国内建設市場については、
足元ではコロナ政策の緩和によって
個人消費やインバウンド需要の回復など明るい兆しも見えますが、
住宅・非住宅ともに着工統計の推移を見る限り、
軟調に推移すると予測しております。

海外市場については、
ここに記載の通り、先行きは不透明な状況ではありますが、
当社が立地するアジア地域においては、
底堅い経済成長を持続するものと予測しております。

また、為替レート・ナフサ価格の前提はご覧の通りです。

3-2. 2024年3月期 通期計画

AICA

[百万円]

	2023/3期 実績		2024/3期 計画			対前期
	金額	利益率	金額	利益率	伸率	増減額
売上高	242,055	-	250,000	-	3.3%	7,945
営業利益	20,557	8.5%	21,500	8.6%	4.6%	943
経常利益	22,088	9.1%	22,500	9.0%	1.9%	412
当期純利益※	10,059	4.2%	13,200	5.3%	31.2%	3,141
ROE	6.9%	-	9.0%	-	-	-
ROA	4.1%	-	5.2%	-	-	-
一株当たり純利益	157.27円	-	206.37円	-	-	-
一株当たり株主資本	2,270.08円	-	2,366.45円	-	-	-
研究開発費	39.9億円	-	42.0億円	-	-	-
減価償却費	67.9億円	-	75.0億円	-	-	-
設備投資額	86.9億円	-	100.0億円	-	-	-

※親会社株主に帰属する当期純利益

©Aica Kogyo Co., Ltd.

20

今期の通期計画はご覧の通りです。

売上高 2,500億円、
 営業利益 215億円、
 経常利益 225億円、
 当期純利益 132億円
 としております。

3-3. 2024年3月期 通期セグメント別計画

[百万円]

	売上高			営業利益				
	2023/3期 実績	2024/3期 計画	伸率	2023/3期 実績	2024/3期 計画	伸率		
化成品	141,312	145,000	2.6%	7,494	7,600	1.4%	金額	
				5.3%	5.2%	-	利益率	
建装建材	100,743	105,000	4.2%	16,740	17,900	6.9%	金額	
				16.6%	17.0%	-	利益率	
				(配賦不能営業費用)	▲3,678	▲4,000	-	金額
合計	242,055	250,000	3.3%	20,557	21,500	4.6%	金額	
				8.5%	8.6%	-	利益率	

このスライドは、
通期のセグメント別売上高・営業利益の計画を示したものです。

国内外ともに、引き続き、
原材料の高止まりやエネルギーコストの上昇など
依然不透明な状況が続くと見ておりますが、
いずれのセグメントも、増収増益を計画しております。

3-4. 2024年3月期 上半期セグメント別業績計画

[百万円]

	売上高			営業利益				
	2023/3期 上半期実績	2024/3期 上半期計画	伸率	2023/3期 上半期実績	2024/3期 上半期計画	伸率		
化成品	71,654	72,000	0.5%	3,783	3,800	0.4%	金額	
				5.3%	5.3%	-	利益率	
建装建材	46,050	47,000	2.1%	7,459	8,100	8.6%	金額	
				16.2%	17.2%	-	利益率	
				(配賦不能営業費用)	▲1,804	▲1,900	-	金額
合計	117,704	119,000	1.1%	9,437	10,000	6.0%	金額	
				8.0%	8.4%	-	利益率	

続いて、このスライドは、
上半期の計画を示したものです。

1. 2023年3月期 実績概況
2. 2023年3月期 セグメント別実績
3. 2024年3月期 計画概況
- 4. 2024年3月期 セグメント別計画**

続いて、
2024年3月期のセグメント別計画につきまして、ご説明いたします。

4-1. 化成品セグメント 商品群別売上実績および計画

AICA

[億円]

	2023/3期 (実績)				2024/3期 (計画)			
	分類(旧)		分類(新) ※ ₁		分類(新) ※ ₁			
	上半期	通期	上半期	通期	上半期	伸率	通期	伸率
接着剤 ※ ₁	485.5	961.8	511.1	1,015.0	513.5	0.5%	1,044.0	2.9%
(うちAAP社) ※ ₁ ※ ₂	(404.3)	(794.7)	(412.2)	(810.7)	(414.0)	(0.4%)	(835.0)	(3.0%)
建設樹脂 ※ ₁	47.9	99.2	47.4	98.1	48.0	1.2%	101.0	2.9%
機能材料 ※ ₁	115.9	221.1	94.9	177.0	95.0	0.1%	181.5	2.5%
その他 ※ ₁	67.1	130.8	63.0	122.8	63.5	0.8%	123.5	0.5%
合計	716.5	1,413.1	716.5	1,413.1	720.0	0.5%	1,450.0	2.6%

※₁ 商品群分類の変更: 「機能材料・その他」商品群に分類していた「ホットメルト」、「アクリル・コンパウンド」を今期より「接着剤」の分類に変更
「接着剤、建設樹脂、機能材料」商品群に分類していた「昆山愛克樹脂」、「瀋陽愛克浩博化工」の売上を今期より「AAP社」の分類に変更

※₂ AAP社: アイカ・アジア・パシフィック社

©Aica Kogyo Co., Ltd.

24

まず、化成品セグメントの売上計画です。

全体では、
前年に対して、2.6%伸長、1,450億円の計画としております。

AAP社が中国や東南アジア市場での底堅い成長を見込む他、
機能材料事業で、化粧品市場における有機微粒子の回復や
シューズ向けウレタン樹脂の回復を見込んでおります。

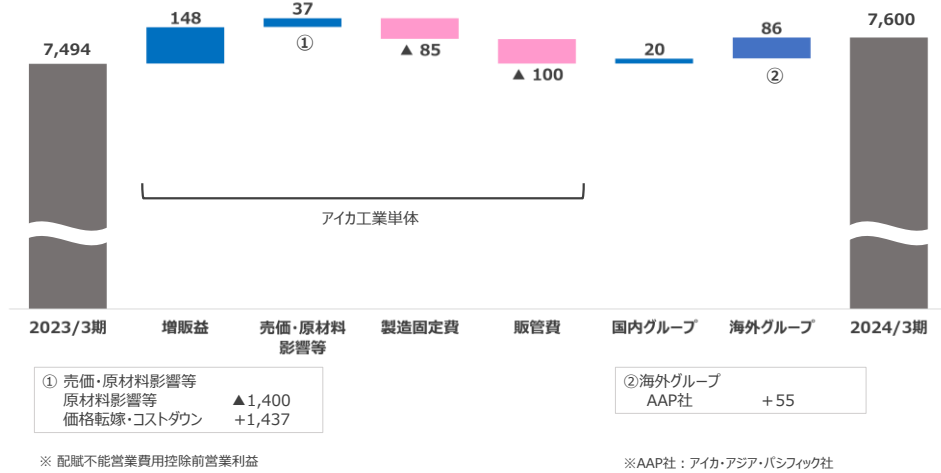
なお、今期より商品群分類を変更いたしました。

詳細内容は※₁に記載の通りです。

4-2. 化成品セグメント 営業利益計画

AICA

[百万円]



©Aica Kogyo Co., Ltd.

25

このスライドは、化成品セグメントにおける
 今期の営業利益の増減計画です。

アिका工業単体の製造固定費や販管費の増加で、
 1億 8,500 万円の減少を見込む一方で、

アिका工業単体の増販益、売価・原材料の影響、
 国内グループ会社、海外グループ会社の増益で、
 2億 9,100 万円の増加を計画しております。

その結果、営業利益は前年に対して、
 1億 600 万円増加の76億円を計画しております。

4-3. 化成品セグメント 方策 (AAP社)

AAP社

■ 中国3大プロジェクトの推進

① アイカ広東社の移転・新工場建設

- ・ 合板・繊維板用フェノール樹脂の生産能力向上
- ・ 2023年10月稼働開始予定



② アイカ福建社の新工場建設

- ・ 竹材用フェノール樹脂の需要取り込み
- ・ 2023年12月稼働開始予定



③ アイカ南京社の新工場建設

- ・ 工業用フェノール樹脂の新工場建設
- ・ 2024年10-12月稼働開始予定



■ アイカドンナイ社の新設備稼働開始

- ・ 合板向けフェノール樹脂の生産を新規開始
- ・ 2023年4月稼働開始
- ・ 将来的にベトナムNo.1メーカーへ

アジアのフェノール樹脂需要の取り込み
AAP社 通期売上計画 : 835.0億円(前年比 +3.0%)

※AAP社 : アイカ・アジア・パシフィック社

©Aica Kogyo Co., Ltd.

26

続きまして、
その計画を達成するための重点方策につきまして、ご説明します。

まずは、AAP社の方策です。

中国3大プロジェクトの投資計画を確実に進め、
拡大するアジアのフェノール樹脂需要を早期に取り込んでまいります。
まずは、アイカ広東社の新工場が10月より稼働予定です。

また、ベトナム／アイカドンナイ社では、
合板向けフェノール樹脂の新規生産を2023年4月より開始いたしました。

AAP社の売上につきましては、
前年に対して、3.0%増の835億円を計画しております。

4-4. 化成品セグメント 方策（接着剤・建設樹脂）

AICA

接着剤（国内）

- 成長市場への拡販およびSDGs・脱炭素取り組み企業への提案強化
- 梱包用ホットメルトの拡大・実績化（アドテック社シナジー）、ヘッドランプ用弾性ホットメルトの拡販
- 売価改定、樹脂別の規律ある投資による利益率向上



リグニンフェノール樹脂を使用した合板・LVL用接着剤



ヘッドランプ用ホットメルト

接着剤(国内) 通期売上計画 : 209.0億円(前年比 +2.3%)

建設樹脂

- 湿式外断熱工法や改修向け塗り壁材の拡販強化
- 塗り床材のスペック活動強化、簡易施工商品の拡販
- 建築改修市場・土木補修市場におけるブランド強化
- 売価改定、高付加価値品拡販による利益向上



湿式外断熱工法「パッシブウォール」

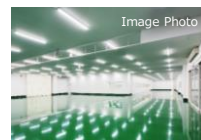


Image Photo
ジョリエースEドーン流しのPENCP工法

建設樹脂 通期売上計画 : 101.0億円(前年比 +2.9%)

©Aica Kogyo Co., Ltd.

27

接着剤の国内事業については、植物由来のリグニンフェノール樹脂を使用した接着剤などの気候変動問題に対応した商品や施工系接着剤などの成長市場向け商品の拡販を強化します。

また、自動車市場の回復が見込まれ、ヘッドランプ用ホットメルトの拡販にも注力します。

その結果、売上は前年に対して、2.3%増の209億円を計画しております。

建設樹脂については、住宅などの外壁に使われる湿式外断熱工法「パッシブウォール」、工場や倉庫に使われる塗り床材などの拡販を強化します。

その結果、売上は前年に対して、2.9%増の101億円を計画しております。

4-5. 化成品セグメント 方策（機能材料）

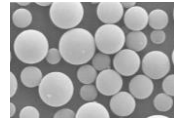
AICA

機能材料（国内）

- 自動車用3次元加飾フィルムの実績拡大、反射防止フィルムの採用拡大
- （有機微粒子）コロナ回復需要の獲得、環境配慮型商品の提案強化



自動車用加飾フィルム



有機微粒子

EMC社

- サン・ヤッド社（ベトナム）のシナジー創出
 - ・ シューズ用ウレタン樹脂の製造工場に転換すべく、少量製造釜設置
 - ・ 台湾や中国から輸出していたベトナム・シューズメーカーへのPUSを現地生産化
- 南投工場（台湾）にてUV硬化型モノマーの第3製造ライン設置
 - ・ 大園工場で製造しているUV硬化型コーティング剤の原材料としてもこのモノマーを使用
 - ・ 顧客ニーズの高まりにより、生産能力を1.6倍に拡大
 - ・ 2024年1月 量産開始予定



サン・ヤッド社



EMC社



UV硬化型コーティング剤使用例
（ラベル用）

機能材料 通期売上計画：181.5億円（前年比+2.5%）

※EMC社：エプモア・ケミカル・インダストリー社

©Aica Kogyo Co., Ltd.

28

機能材料事業については、
自動車用途「3次元加飾フィルム」や反射防止フィルム、
コロナ回復で需要が増す化粧品用途や環境配慮型の有機微粒子などの
実績拡大に注力してまいります。

EMC社については、
シューズの生産拠点が中国からベトナムに移っており、
現地供給により、シューズ用ウレタン樹脂の需要を獲得してまいります。

また、EMC南投工場においてUVモノマーの設備投資を実施いたします。
こちらで製造しているモノマーは、内販・外販ともに需要が高まっておりますので、
ライン増設により、逼迫しているキャパシティを1.6倍に拡大いたします。

これらの結果、
売上は前年に対して、2.5%増の181.5億円を計画しております。

4-6. 建装建材セグメント 商品群別売上実績および計画

AICA

[億円]

	2023/3期 (実績)				2024/3期 (計画)			
	分類(旧)		分類(新) ※		分類(新) ※			
	上半期	通期	上半期	通期	上半期	伸率	通期	伸率
メラミン化粧板	141.0	322.0	141.0	322.0	148.0	4.9%	345.0	7.1%
ボード フィルム等	58.3	125.0	58.3	125.0	58.5	0.3%	126.5	1.2%
セラール	101.4	217.4	101.4	217.4	102.0	0.5%	223.0	2.5%
不燃建材	38.5	78.0	38.5	78.0	38.6	0.2%	78.6	0.8%
カウンター ポストフォーム	98.3	213.0	121.0	264.8	122.9	1.5%	276.9	4.5%
建具 インテリア建材								
合計	460.5	1,007.4	460.5	1,007.4	470.0	2.1%	1,050.0	4.2%

※ 商品群分類の変更:「カウンター ポストフォーム」と「建具 インテリア建材」の商品群を今期より「住器建材」に統合します

©Aica Kogyo Co., Ltd.

29

続いて、
建装建材セグメントの売上計画です。

全体では、
前年に対して、4.2%伸長、1,050億円の計画としております。

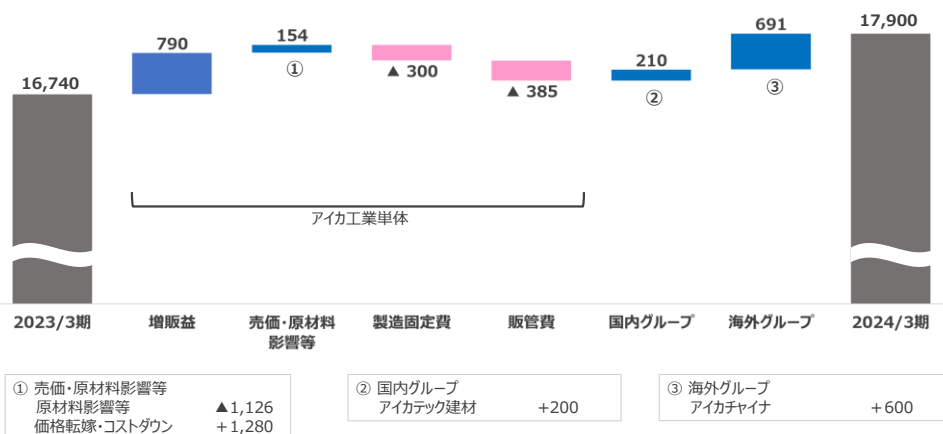
海外グループのシナジー効果を拡大し、
「メラミン化粧板」を7.1%伸ばすとともに、
近年好調な「住器建材」を4.5%伸ばす計画です。

なお、今期より、商品群分類を一部統合しております。
詳細内容は、※印に記載の通りです。

4-7. 建装建材セグメント 営業利益計画

AICA

[百万円]



※ 配賦不能営業費用控除前営業利益

※ アイカチャイナ：ワイルソナート上海社+ソイス社

©Aica Kogyo Co., Ltd.

30

このスライドは、建装建材セグメントにおける
今期の営業利益の増減計画です。

アイカ工業単体の製造固定費や販管費の増加で、
6億 8,500 万円の減少を見込む一方で、

アイカ工業単体の増販益、売価・原材料の影響、
国内グループ会社、海外グループ会社の増益で、
18億 4,500 万円の増加を計画しております。

その結果、営業利益は前年に対して、
11億 6,000 万円増加の179億円を計画しております。

4-8. 建装建材セグメント 方策（国内）

AICA

AS商品の拡販

- **抗ウイルス建材「ウイルテクト」**
 - ・ 売上計画：約15億円（前年比+15%）
 - ・ 消臭機能(ウイルテクトPlus)により、清潔感と快適性を追求
- **高級人造石「フィオレストーン」**
 - ・ 売上計画：約40億円（前年比+14%）
 - ・ 設計活動強化、用途展開
- **洗面化粧台「スマートサニタリー」**
 - ・ 売上計画：約15億円（前年比+30%）
 - ・ アイテム拡充による新規ユーザー獲得
- **高意匠メラミン不燃化粧板「セラール セレント」**
 - ・ 売上計画：約5億円（前年比+50%）
 - ・ 設計指定活動強化、住宅需要獲得

抗ウイルス建材 **ウイルテクト**



トイレ空間向け造作風手洗いカウンター
スマートサニタリーミューゼ



高級人造石 **フィオレストーン**



製造/河口茶具製作所

高意匠メラミン不燃化粧板
セラールセレント



allie
設計/株式会社KAMITOPEN 一級建築士事務所
販売/株式会社D+グループ 宮本啓介

※AS商品：AICA Solution商品の略。様々な社会課題を解決する商品

©Aica Kogyo Co., Ltd.

31

建装建材セグメント・国内事業は、
社会課題を解決するAS商品の拡販に注力します。

抗ウイルス建材「ウイルテクト」シリーズは
消臭機能を追加したウイルテクトPlusをトイレなどで拡販してまいります。

高級人造石「フィオレストーン」は
設計事務所への営業活動の強化により、用途展開を図り、
さらに伸長させます。

洗面化粧台「スマートサニタリー」は
従来のシリーズにトイレ向けプランを追加しました。

高意匠なメラミン不燃化粧板「セラールセレント」は
非住宅向けの拡販に加え、住宅向けラインナップも増強し、
さらに伸ばしてまいります。

天井市場への本格参入

■ 防カビ性能をもつ天井材「カビテクト」を発売

- ・ スーパーマーケットやコンビニエンスストアなどの店舗天井に発生するカビ
⇒ 外観面でも衛生面でも店舗運営者を困らせていた

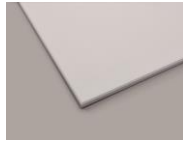
カビテクト

独自開発したけい酸カルシウム板基材 × 防カビ塗料塗装
⇒ 相乗効果により、高い防カビ効果を実現

- 優れた防カビ性能：カビの発育を抑制し、美観・衛生面を向上
- 優れた経済性：清掃不要で、メンテナンスコストを削減



カビが発生した店舗天井



カビテクト



カビテクト施工風景

■ セラール天井向け施工方法「セラールFP工法」を開発

- ・ JR東日本および同社グループとの共同研究を経て、メラミン不燃化粧板「セラール」を天井に施工する新工法を開発
- ・ 2023年7月発売予定
 - 乾式施工による深い目地の納まりが可能に
 - 意匠性を損なわない固定機構を開発
 - 不燃性・耐熱性・耐久性に優れる
 - デザインバリエーションが豊富



セラールFP工法施工事例「グランスタ八重北」

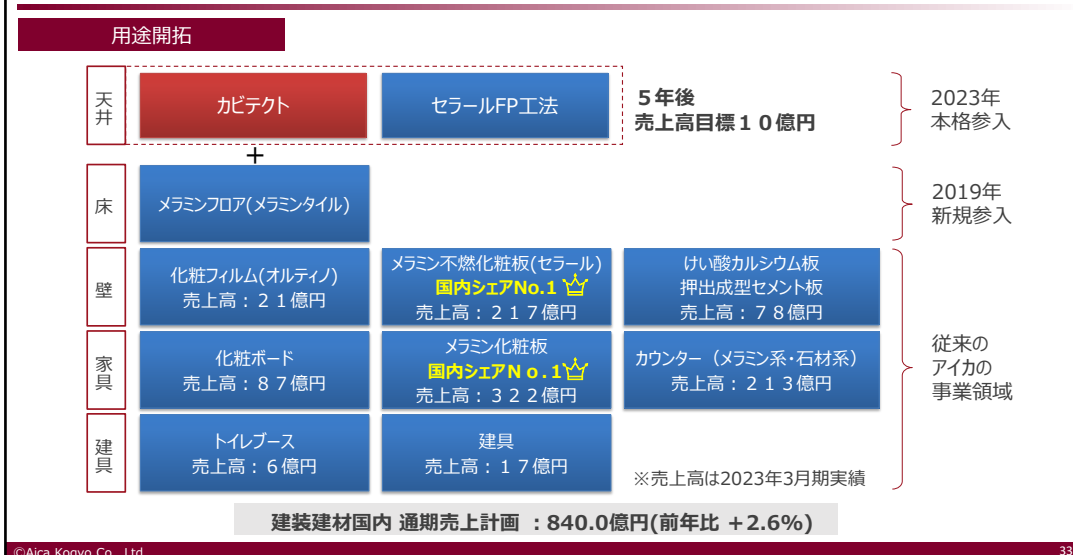
続きまして、天井材です。

防カビ不燃天井材「カビテクト」を昨年発売し、天井市場に本格参入しました。スーパーマーケットやコンビニエンスストアなどの店舗運営者を悩ませる「天井のカビ問題」を解決する製品です。

優れた防カビ性能により、店舗の美観・衛生面を向上するとともに、清掃不要で店舗のメンテナンスコスト削減に寄与します。

また、JR東日本および同社グループとの共同研究を経て、メラミン不燃化粧板「セラール」を天井に施工する新工法を開発しました。意匠性や不燃性に優れた工法であり、今後のニーズ拡大が期待できます。

4-8. 建装建材セグメント 方策（国内）



これまで、アイカの建装建材は、国内シェアNo.1のメラミン化粧板やセラールに代表される、家具や壁面、さらには建具を主な事業領域としてまいりました。

近年では、2019年に床材市場へ、今回は天井市場へと参入しており、用途開拓が進んでおります。

天井市場では、5年後に10億円の売上を目指し、空間デザインメーカーとしての成長をさらに加速させてまいります。

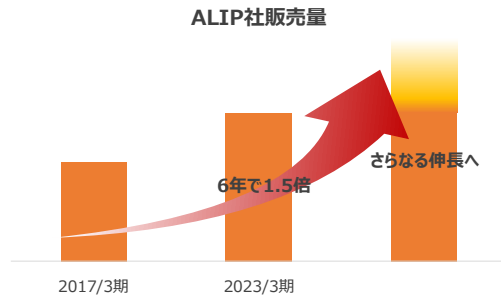
国内建装建材の今年度売上は、前年に対して、2.6%増の840億円を計画しております。

4-9. 建装建材セグメント 方策 (海外)

AICA

アイカ・ラミネーツ・インド社 (ALIP) の設備投資

- 化粧板の製造設備を増設、既存設備を改良
- 過去6年間で1.5倍となったインドでの販売量をさらに伸長させる
- 2025年度には生産能力を1.6倍に向上
- 設備投資額 約3.7億円



©Aica Kogyo Co., Ltd.

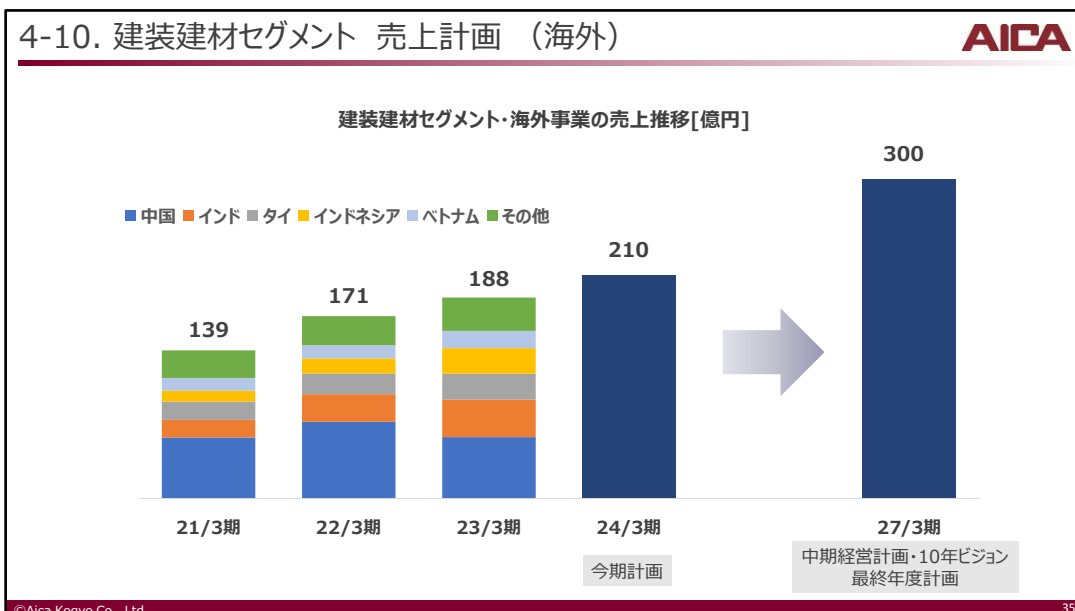
アイカ・ラミネーツ・ベトナム社 (ALV) の設備投資



- 化粧板の製造設備を増設
- ALV社の生産能力を2倍に引き上げ
- アジア地域の需要増加に対応
- 設備投資額 約12億円
- 2024年1月 稼働開始予定

海外については、国際社会の中で日に日に存在感を増しているインドが好調で、アイカ・ラミネーツ・インド、ALIP社の販売量は過去6年間で1.5倍以上に伸長しております。さらに業績の拡大が見込めるため、化粧板製造設備の増強を行っております。

また、アイカ・ラミネーツ・ベトナム、ALV社では、アジア地域の旺盛な需要に加えて、日本国内における需給バランスの逼迫も想定されることから、生産能力を2倍に引き上げます。



これらの方策により、当社の建装建材事業の海外売上高は、今期210億円を見込んでいます。

10年ビジョン最終年度の2027年3月期には売上高300億円を目指す計画です。

新型コロナウイルスの影響などにより、一時的に景気は減速しましたが、中長期的に見れば、アジアでは経済発展とともに高意匠化・高品質化が進んでいます。

当社グループは、その市場で確固たる地位を築いてまいります。



アイカ工業株式会社

本資料に掲載されているアイカ工業株式会社の現在の計画、見通し、戦略、確信等のうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。
これらの情報は、現在入手可能な情報からアイカ工業株式会社の経営者の判断に基づいて作成されております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、業績見通しとは大きく異なる結果となりうるため、業績見通しのみで全面的に依拠することは控えるようお願い致します。
また、本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われますようお願い申し上げます。

以上で決算についての説明を終了させていただきます。